

1 要配慮者避難支援とは？

わたしたちのまちは、安全？

札幌の過去の災害事例

札幌は災害が少ないと言われていますが、過去には深刻な災害も起こっています。

平成16年の災害



■台風18号 9月8日
最大瞬間風速/50.2m/s
倒木/約1万9千本
※死者4名・負傷者92名

平成26年の災害



■集中豪雨 9月11日
避難者数/約1,000人
※死者・負傷者なし
開設避難所数/159カ所

平成30年の災害



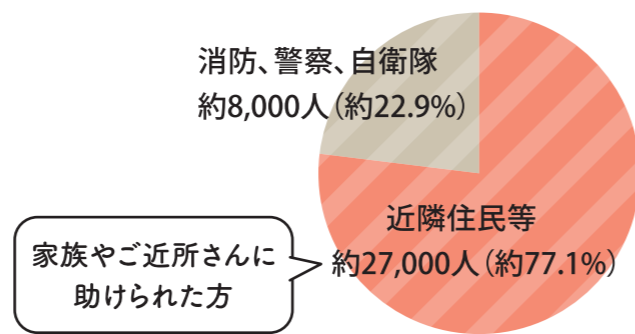
■北海道胆振東部地震 9月6日
住家棟数:全壊101戸、半壊818戸、一部損壊36,251戸
非住家棟数:全壊7戸、半壊27戸、一部損壊431戸
※死者3名(うち災害関連死2名)
負傷者297名(重傷1名、軽傷296名。余震による被害を含む)

阪神・淡路大震災で得た教訓

頼れるのは、ご近所さんでした

平成7年の阪神・淡路大震災のときには、倒壊した家屋などに閉じ込められて、自力で逃げられなかった約35,000人のうち、約27,000人(約8割)は、家族や近隣の住民によって助けられました。

●阪神・淡路大震災における救助の主体と救出者数
(内閣府 平成26年度版防災白書より)

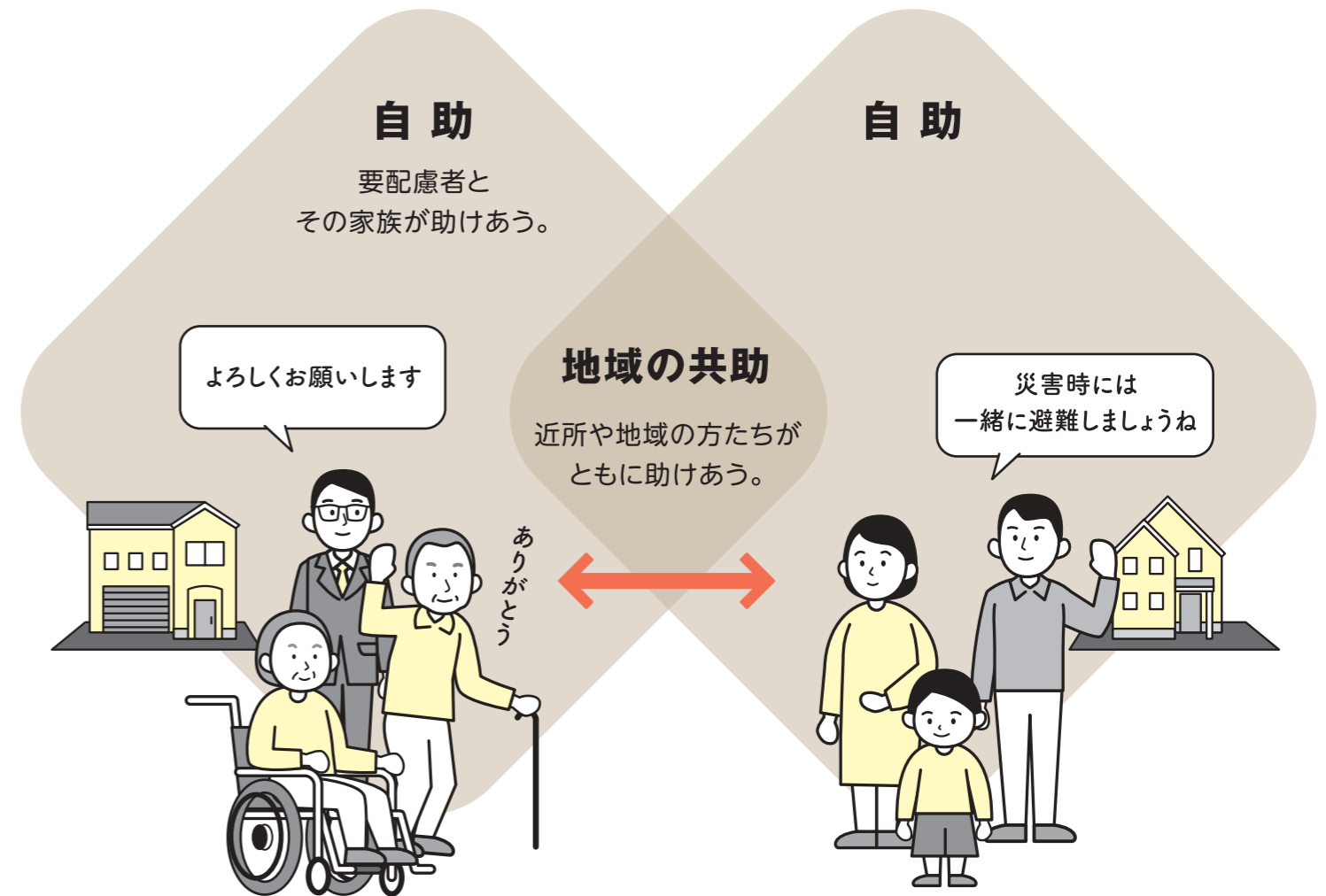


地域での助けあいが重要です

一刻を争うとき、行政の支援は間に合いません

過去の災害の教訓から、災害が発生した直後は行政の支援が間に合わないことがわかっています。このため隣近所をはじめとした地域での助けあいが重要になります。

災害時支えあいのカタチ



1 要配慮者避難支援とは？

みんなが支えたり、支えられたり

周囲にどんな人がいるか、考えてみよう

災害発生時に、自分の力だけでは避難することが困難な要配慮者(高齢者や障がいのある方など)の避難支援を、地域ぐるみで行うことを「要配慮者避難支援」と言います。

要配慮者

災害時には、特に配慮が必要です。

急いで逃げられない
もので



高齢者

- 一人暮らしの高齢者
- 高齢者世帯
- 寝たきりの方
- 認知症の方 など

お腹が
大きいもので

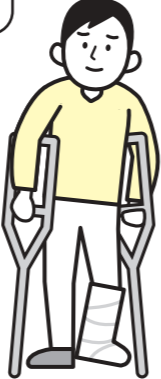


障がいのある方

- 視覚、聴覚、
言語が不自由な方
- 肢体が不自由な方
- 内部障がいがある方
- 精神障がいがある方
- 知的障がいがある方 など

手助けが 必要な場合もある方

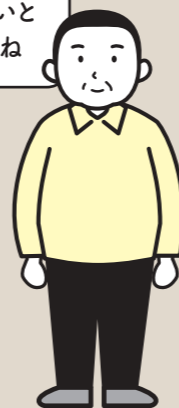
- 妊産婦
- 乳幼児・児童
- ケガや病気の方
- 外国人 など



みんなが支援者!

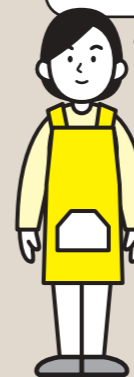
いざというとき、要配慮者を支援できます!

みんなの
役に立ちたいと
思っています



町内会

安心できる
まちにしたい!



困りごとがあれば
相談してください



民生委員

普段から見守り
活動をしています



福祉推進員

平日の日中は不在が多いけど、
夜や休日は支援できます!



子どもいますが
一緒に避難できます



近隣住民

高齢でも
まだまだ支援できます



※要配慮者の支援は義務ではありません。支援者はご自身や家族の身の安全を確保することが優先です。

すべてのみなさんが日頃から防災意識を持ち、見守りや声をかけあう など交流の機会を多くもつことで、活動の輪は広がっていきます。